

1 申請者の情報		申請年月日	令和6年10月2日
フリガナ	イリヨウホウジン ショウエイカイ マツナガイイン	住所・所在地	〒752-0975 下関市長府中浜町2番5号
医療機関の名称	医療法人松永会 まつなが医院		

2 病床削減の概要(予定含む)

<許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計※2
1	①平成30年度病床機能報告における許可病床数		7		12		19	19
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその許可病床数 ※1							

※1 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は「1②」は記載不要(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※2 対象3区分=高度急性期、急性期、慢性期(以下同様)

<稼働病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
2	①平成30年度病床機能報告における稼働病床数		7		12		19	19
	②平成30年度報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更があった場合はその稼働病床数 ※3							

※3 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「2②」は記載不要

(令和2年4月1日時点での変更は除く)

<病床削減後の許可病床数>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計	うち対象3区分の合計
3	病床削減後の許可病床数		6		5		11	11

<他の医療機関との病床融通>

		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	対象3区分の合計
4	他の医療機関との病床融通数 ※4		0		0	0

※4 病院統合や地域医療連携推進法人の病床融通制度等を活用し、他の病院等へ病床が移転しようとする場合に記載すること。

また、「(参考)病床移転にかかる概要」に関連する病院等の病床数を記載すること。

<対象3区分から回復期又は介護医療院へ転換した病床数>

		回復期	介護医療院	合計
		5	削減病床のうち、回復期又は介護医療院へ転換した病床数	

<年間在棟患者延べ数(人)>

		高度急性期	急性期	慢性期	合計
		6	①平成30年度病床機能報告における対象3区分の病棟の年間在棟患者延べ数(人) ※5		2,488
	②令和2年4月1日時点年間在棟患者延べ数(人) ※6・7				0

※5 対象3区分の病棟に係る平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)の(48)欄の数値を計上すること。なお、平成30年度病床機能報告の報告様式1(病棟票)において、「過去1年間の間に病棟の再編・見直しあり」と報告した病棟の年間在棟患者延べ数については、以下の式により補正して計上すること。

○ 補正後の年間在棟患者延べ数=年間在棟患者延べ数((48)欄に記載された数値)×12÷報告可能な対象期間(月単位)

(注) 報告可能な対象期間(月単位)は、平成30年度病床機能報告で報告した月数とすること。

例) 報告可能な対象期間を「平成29年7月1日～平成29年12月末日」とした場合 ⇒ 報告可能な対象期間(月単位)=6

※6 令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合(「1②」が記載不要となる場合)は「6②」は記載不要

(令和2年4月1日時点での変更は除く)

※7 令和元年度病床機能報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数に変更がない場合は令和元年度病床機能報告の数値を計上すること。

変更がある場合は、変更後令和2年4月1日までの在棟患者延べ数を※5を参考に算定して計上すること。

3 病棟別内訳(予定含む)

【変更前の状況(R2.4.1まで)】

変更前	病棟別内訳 (病床機能報告から転記)	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	稼働病床数
		①3階病棟	有床診療所入院基本料 ²	急性期	7床	7床
		②3階病棟	有床診療所療養病床入院基本料 ²	慢性期	12床	12床
		③				
計					19床	19床

※平成30年度の病床機能報告を転記することを原則とするが、平成30年度の報告後、令和2年4月1日までに機能別の病床数等に変更がある場合は変更後の病床数等を記載すること。



【令和2年度】 ※介護医療院に4床転換

R6 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更時期
		①3階病棟	有床診療所入院基本料 ²	急性期	7床	年 月
		②3階病棟	有床診療所療養病床入院基本料 ²	慢性期	8床	R2年 6月
		③				年 月
計					15床	



【令和6年度】

R6 年度	病棟別内訳	病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更時期
		①3階病棟	有床診療所入院基本料 ²	急性期	6床	R7年 3月
		②3階病棟	有床診療所療養病床入院基本料 ²	慢性期	5床	R7年 3月
		③				年 月
計					11床	



【令和7年度以降】(変更がない場合や計画が未定の場合は、「以後変更なし」「未定」等と記載のこと)

		病棟の名称	算定する入院基本料 ・特定入院料	病床機能	許可病床数	変更(予定)時期 ※変更がある場合
R7 年度	病棟別内訳	①				年 月
		②	以後変更なし			年 月
		③				年 月
	計					床
R8 年度	病棟別内訳	①				年 月
		②	以後変更なし			年 月
		③				年 月
	計					床

※病棟別内訳の数が不足する場合は適宜追加すること。

※計画完了時には「休棟等」がすべて削除され、存在しない状態となっていること。

病床削減が地域医療構想の実現に資するものであることの説明資料

対象医療機関名 まつなが医院

1 地域の状況		
地域の現状と課題	人材の確保及び流出防止が圏域で共有する喫緊課題の一つである。これら課題へ向けた改善策・対応策については、所在地および規模、主たる患者特性等、様々な要件を勘案しつつ進めていく必要があるが、中長期的視野に立ち、病床削減も資する策の一端になり得ると考える。	
2 自施設の状況		
自施設の現状 (変更前)	かかりつけ医機能をもつ有床診療所として、外来から切れ目のない医療を提供しているほか、在宅療養支援診療所として、通院が困難になった方、他院から自宅退院した方等への訪問診療を積極的に行っている。	
病床数の見直し	見直しの考え方	実働病床数の緩やかな減少傾向から、地域の人口減少にともなう医療ニーズの変容が窺える。そのような状況下においても、大半が高齢者である入院患者への介助に要するマンパワー(量的要求)の保持拡充、スキルレベル(質的要求)の維持向上は、停滞させることはできない。 しかし現状は、入院患者数に対して十分な陣容とはいえず、結果日々の業務に忙殺される中で、OJT等、個々のスキルアップのための人員、時間の確保がままならない。
	対象の病棟・病床の概要	届出入院基本料:有床診療所入院基本料2 許可病床数:7床 :有床診療所療養病床入院基本料2 許可病床数:8床
	入院患者への対応	人員現況およびニーズから、今回計画削減数に近似の病床数での運用が結果的に既になされており、本申請による他の病院、施設等への転院調整は発生しない見込み。
3 病床削減が地域医療構想の実現に資するものである理由		
理由	適正な病床規模への変更により、現場従事者の心的、肉体的負担軽減を図り、そこで生まれた余裕をサービス提供のあり方に反映させることで、患者とのコミュニケーションのより一層の良化を期する。この積み重ねにより、従事者の定着、確保、適正配置を安定させるとともに、在宅支援医療への力量を増大させることで、医療従事者、地域住民の双方へ寄与、貢献できるものとする。	

【参考】対象区分別の削減(計画)病床数

対象区分	R6		R7		R8		計
		変更時期		変更時期		変更時期	
高度急性期							
急性期	△ 1	R7.3					△ 1
慢性期	△ 3	R7.3					△ 3
合計	△ 4						△ 4

※複数年度に渡る削減を予定している場合は各年度に削減(計画)病床数を記載

【参考: R5病床機能報告(下関保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・ 廃止予定	介護保険施設 移行予定	合計
報告	①R5 (2023)現状	260	1,294	1,081	1,444	230		4,309
	②R7 (2025)予定	260	1,282	1,107	1,428	79		4,156
構想	③R7 (2025)必要数	264	856	1,067	1,295			3,482
④構想との差(R5) (①-③)		△ 4	438	14	149			597
⑤構想との差(R7) (②-③)		△ 4	426	40	133			595